

弥生時代・古墳時代の大規模集落と銅鐸破片の発見について



徳島大学埋蔵文化財調査室は、昨年4月より蔵本キャンパス内の立体駐車場新設予定地内における、庄・蔵本遺跡の発掘調査において、弥生時代～古代の大規模集落跡を発見しました。

今回の調査では、弥生時代～古墳時代の住居跡が約10棟、井戸が4基、河道の跡（鮎喰川の旧河道）などがみつかっています。出土資料はダンボール箱約1000箱に及び、その大半は弥生式土器、石器でしたが、木製品や金属器なども見つかりました。特筆すべきは銅鐸の破片で、突線鈕式銅鐸の破片では四国で初めての発見となりました。

● 弥生時代前期の水田跡

蔵本キャンパスに位置する庄・蔵本遺跡は、県下最大の弥生時代遺跡です。これまで、1月上旬に弥生時代前期の水田跡を発見するなど重要な発見を繰り返して参りました。

このたび、弥生時代前期～古代にわたる集落跡を発掘し、多量の資料が出土しました。現地は蔵本キャンパスの南西に位置し、鮎喰川旧河道の形成する微高地に立地し、水場も近く、良好な居住環境にあったものと推察され、弥生時代前期～古代にわたる集落跡を検出することができました。遺構は住居跡約10棟のほか井戸4基、お墓3基などです。また、調査地の南端に、東西方向に幅20mほどの旧河道が検出されました。この旧河道は、先の水田跡などの水源になったと考えられます。また、ダンボール箱1000箱にも及ぶ多量の遺物が出土しました。弥生土器、石器のほか、木製品や金属器が出土しました。なかでも突線鈕式銅鐸の破片は、四国で初めての発見であり、特筆すべき資料です。

現地は3月末～4月初旬頃まで調査しておりますが、その後埋め戻され、新たに立体駐車場となり実見できなくなります。これほど良好な弥生時代の資料を見学できる機会はめったにありませんので、是非報道関係並びに市民の皆様にご覧になっていただきたいと思っております。

報道関係者向けの案内

- 日時：2月7日（木曜日）13時30分から
蔵本キャンパス立体駐車場建設予定地（キャンパス南西の蔵本プールすぐ東隣）にておこないますので、詳細は下記までご連絡ください。

一般市民向けの現地説明会

- 日時：2月9日（土曜日）午前10時～12時まで

上記について報道いただきますようお願いいたします。

お問い合わせ先

○徳島大学埋蔵文化財調査室室長
兼大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部准教授
中村 豊

〒770-8503 徳島市蔵本町 2-50-1

tel:090-4504-1903

[E-mail : yunaka@clin.med.tokushima-u.ac.jp](mailto:yunaka@clin.med.tokushima-u.ac.jp)

当日詳細な説明は、同埋蔵文化財調査室特任助教・山口雄治がおこないます。